

青い目の人形と杉戸①

昭和二年（一九二七）のこと。人形を通じた日米の親善活動、民間外交が行われたのを御存知でしょうか。そして、その活動の中で、アメリカからの「青い目の人形親善大使」が杉戸町にも来ていたことを。

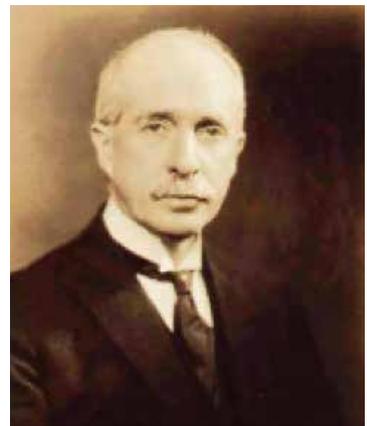
明治末期の日露戦争終結以降、中国大陸での権益等をめぐって、日米関係は徐々に悪化していきました。加えて、アメリカにおける日本人移民問題が、両国の対立に拍車をかけていました。

そうした社会状況を憂慮したのが、アメリカ人シドニー・ルイス・ギューリックです。ギューリックは、明治二十一年（一八八八）に宣教師として来日し、同志社大学神学部教授を務めたこともある親日家でした。病気等によりアメリカに帰国していたギューリックは、日米の緊張緩和、関係改善のため、「世界の平和は子供から」をスローガンに、世界国際児童親善会を設立しました。

その手始めとして行われたのが、「青い目の人形」による日米親善活動です。ギューリックは、「日米がギクシャクした関係にあるのは、両国の人々のお互いの文化的理解が欠けているからだ。」と考えていました。「つぎの世代の子供たちに、お互いの文化的理解と

好意の確固とした基盤を打ち立てることで、未来の世界平和を達成する」という崇高な理念のもと、アメリカから日本の子供たちへと、一万二、七三九体の「青い目の人形」が贈られたのでした。
その際の日本側で重要な役割を果たしたのが、今年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公である渋沢栄一です。

（つづく）



▲シドニー・ルイス・ギューリック

（社会教育課 町史・文化財担当編）

杉戸町スポーツ推進委員 presents
スポーツ教室 PICK UP ②

誰もが気軽に楽しめるファミリーバドミントン教室

「ファミリーバドミントン」とは？

「ファミリーバドミントン」は、3人対3人で対戦する、短いラケットを使ってスポンジボールの付いたシャトルを打ち合うニュースポーツです。

- POINT1** 初めての人でも簡単にプレーできる！
- POINT2** 短いラケットだから、手のひらでシャトルを打つかのような感覚！
- POINT3** スマッシュ禁止だから、ラリーが続いて面白い！

教室開催日時・場所

毎週土曜日 10時～12時 杉戸小学校 体育館

※現在、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、教室開催を見合わせています。参加ご希望の方は、問合せ先まで開催状況をご確認ください。

「さいかつぼーる」こぼれ話

- ☑ **いつできたの？** 昭和63年（1988年）の京都国体で、「バドミントン競技会場地」となった長岡京市が、手軽にバドミントンを楽しめるように…と考案されました。
- ☑ **試合や大会は？** 杉戸町では毎年1回（6月頃）、杉戸町スポーツ推進委員連絡協議会主催で「ファミリーバドミントン交流大会」を開催。皆さん笑顔で楽しくプレーをしています。



MEMO バドミントンラケットより短いシャフトで扱いやすくGood！滞空時間を長くするためにスポンジボールに羽根が付いています。

問合せ 社会教育課 スポーツ振興担当 内線493



UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町ホームページ



メール配信 すぎとメール



広報スマホ版 マチイロ

